A Brief Note No. 212

発行日：２０１２年４月２８日

沖 縄 紀 行

八千代市　　松尾　昌泰

以前から沖縄に行ってみたいと思っていた。それは、沖縄に長男夫妻が、そして数年おいて次男夫妻も行き、海や海岸はきれいで空は青々としていたと聞いていたからだ。

沖縄県は、多くの島からなるが、最東端から最西端までは約 1,000 km、最北端から最南端までは約 400km と、広大である。

旅を計画するのも面倒だったので、沖縄本島だけのツアーを選び３月上旬に参加した。見学した所は、首里城、美ら海水族館（海洋博公園）、万座毛、ひめゆりの塔、沖縄黒糖、パイナップル・パーク、DFS ギャラリー、国際通りなどであった。

行きの飛行機からは、運よく富士山の姿をほぼ真下に見ることが出来た。富士山は、新幹線から見たり、富士五湖の方から見たりはしたが、上から見たことはなかった。実際に直下に見ることができ、雄大で素晴らしい姿に感激した。これこそ「日本」だと。

沖縄は、明治時代の琉球処分（琉球に琉球藩を置き、数年後に沖縄県となり、琉球王国は滅びた）までは、日清両属の琉球王国であり、また、米軍が占拠してから昭和 47 年（1972 年）まで米軍の政権下に置かれた為、他の県とは異なる文化や習俗がある。現在でも多くの米軍基地があり、普天間飛行場の移転先を巡る論争など政治問題が続いている。

（1）在日米軍基地

沖縄は、「綺麗で美しい」というイメージであるが、第二次世界大戦で最大の犠牲になった場所の１つであり、在日米軍基地問題があるところである。

沖縄の在日米軍基地の移転が問題になっているが、沖縄が日本に返還されてからも、米軍占領基地がそのまま継続され、その後も国内の自衛隊基地を次々に「共同使用」という形で米軍基地化し、その面積では倍増したと言われている。インターネットで調べたら、日本には 134 ヵ所の米軍基地があり、そのうち米軍専用基地は 90 ヵ所、その面積の 75%は沖縄に集中している。基地以外にも、膨大な訓練空域と訓練水域が米軍に提供されている。

勿論、基地周辺で問題になっているのは、日本上空の低空飛行訓練、そして基地周辺での艦載機の夜間離発着訓練など、聞くところによれば、航空法を無視し横暴勝手に米軍が使用しているとか。

日本政府は、テロも含めて如何に日本人と日本国土を防衛するのだろうか、防衛できるのだろうかなど、今更ながら思う。私も「自分に直接関係しないことだ」と思っていたのだから、困ったものだ。

（２）第二次世界大戦の犠牲の沖縄

私は第二次世界大戦を実際には体験していない。ただ、小学校低学年生の時に、岡山市内に焼夷弾が落とされた時の光景を遠くの児島干拓地から見たことと、近くの河川の堤防に墜落した日本軍の飛行機（2 人乗り戦闘機か練習機）を見に行ったこと程度である。戦後は家族に護られていたからか、食糧難など戦後の厳しさなど記憶はない。

私の妻は３歳の時に、朝鮮半島の平穰（ピョンヤン）から無事に帰国することができた。日本へ向かう船がつく港まで、長い道のりを、祖母と母と３人で向かったが、母は年老いた祖母を背負っていたので、３歳といえども、一人で後を追って歩かなかったら帰国できなかったそうだ。勿論その時の記憶はないが、大きくなってから母親から聞いた話だとのこと。

「ひめゆりの塔」へ見学に行くツアーのバスの中で、沖縄の戦争中の悲惨さを聞いた。「ひめゆりの塔」を見学し「ひめゆり平和祈念資料館」で写真などを見た。当時の女子学生だった「ひめゆりの乙女」の語り部から、その時の話を直接聞くことができた。国民の命が守れる状況ではなく、想像を超える悲惨さであった。

ひめゆりの塔は、「塔」と名はついているが、実物は高さは１メートルもなく小さなものであった。これは、終戦直後の物資難の時代に建立されたことと、アメリカ軍統治下に目立たないようにと配慮したという事情によるそうであった。

写真の右の小さな石柱が「ひめゆりの塔」、左に口を空けているのが第三外科壕

（３）「国際通り」

国際通りは土産店や観光客でにぎわっているが、戦前は畑の中に細い一本の田舎道だったそうだ。昭和 19 年の沖縄戦の大空襲により、那覇市の民家ほとんどが全焼し、戦後は市街地は米軍により無条件の差押さえで、日本人はへんぴな田舎の土地に集まり、命をつなぐ為に闇市を立てたのが国際通りの始まりで、観光名所の大繁華街へと変っていった。

夜の国際通りの島唄ライブの店「島唄ライブ 喜納啓子 Ohana」に行った。その日は看板の喜納啓子（キナケイコ）がちょうど不在だった為か、客は少なくさびしかったが、沖縄の音楽と沖縄料理をいただき楽しんだ。

（4）万座毛（まんざもう）

沖縄旅行の代表的な定番である万座毛は、「万人も座する草原」（毛＝草原）のことで、琉球王朝時代に琉球王が賞賛したことが名の由来。

草原が広がる隆起サンゴの台地の上から、東シナ海の水平線が見え、写真のような象に似た岩が見える観光ポイントだ。

（5）首里城　　（琉球王国の栄華を物語る真紅の世界遺産）

首里城は、琉球王朝の王城で琉球の島々を治め、中国、日本、朝鮮、東南アジアなどの国と貿易を行った首里王府の中核であった。（王とその家族等が住んだ、華麗な王朝文化の城）

最初の守礼門から、歓会門、瑞泉門など６個の門をくぐって、やっと正殿にたどりつく。

今の正殿は平成４年に復元されているが、戦前は国宝であり、残念にも昭和 20 年の沖縄戦でほとんど全てが破壊されてしまった。

（６）沖縄の屋上の水タンク　（沖縄の水事情）

沖縄の民家やビルの屋上に大きなタンク、それも丸型、四角型、また、コンクリートで囲ったものなどがある。これは貯水用のタンクとのこと。

那覇市の年間降水量は他の県にくらべ多く、特に 5 月～8 月は、梅雨や台風で雨が多く降る。しかし､高い山は無く森林も少ないし､川は短いので降った雨は直ぐ海に流れてしまう｡だから、今でも水不足があり、屋根に大きな貯水用のタンクが必要だとのこと。

追記：この沖縄の原稿を書き終わった４月２８日は、丁度、６０年前の、敗戦後の日本が再び独立国家として復帰した日（1952 年 4 月 28 日）にあたる。

以上